



2022年3月期 第3四半期決算短信(日本基準)(連結)

2022年2月10日

上場会社名 松田産業株式会社

上場取引所 東

コード番号 7456 URL <https://www.matsuda-sangyo.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 松田 芳明

問合せ先責任者 (役職名) 執行役員IR部長 (氏名) 田中 善則

TEL 03-5381-0728

四半期報告書提出予定日 2022年2月10日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2022年3月期第3四半期の連結業績(2021年4月1日～2021年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年3月期第3四半期	203,634	18.8	10,463	66.4	11,269	76.9	7,900	69.0
2021年3月期第3四半期	171,385	8.9	6,287	20.2	6,371	16.2	4,676	25.0

(注) 包括利益 2022年3月期第3四半期 8,362百万円 (83.1%) 2021年3月期第3四半期 4,568百万円 (36.1%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2022年3月期第3四半期	302.86	
2021年3月期第3四半期	178.17	

(注) 「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、2022年3月期第3四半期連結累計期間に係る各数値については、当該会計基準を適用した後の数値となっております。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2022年3月期第3四半期	111,275	73,100	65.6
2021年3月期	104,265	65,605	62.8

(参考) 自己資本 2022年3月期第3四半期 72,983百万円 2021年3月期 65,494百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年3月期		18.00		20.00	38.00
2022年3月期		22.00			
2022年3月期(予想)				22.00	44.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2022年3月期の連結業績予想(2021年4月1日～2022年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	260,000	12.3	12,200	51.8	13,000	55.3	9,100	49.2	348.84

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- | | |
|--------------------|-----|
| 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 | : 有 |
| 以外の会計方針の変更 | : 無 |
| 会計上の見積りの変更 | : 無 |
| 修正再表示 | : 無 |

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2022年3月期3Q	28,908,581 株	2021年3月期	28,908,581 株
期末自己株式数	2022年3月期3Q	2,822,595 株	2021年3月期	2,821,968 株
期中平均株式数(四半期累計)	2022年3月期3Q	26,086,356 株	2021年3月期3Q	26,244,344 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に掲載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	P. 2
(1) 経営成績に関する説明	P. 2
(2) 財政状態に関する説明	P. 2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	P. 3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	P. 4
(1) 四半期連結貸借対照表	P. 4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	P. 6
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	P. 8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	P. 9
(継続企業の前提に関する注記)	P. 9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	P. 9
(会計方針の変更)	P. 9
(セグメント情報等)	P. 10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間における世界経済は、新型コロナウイルス感染症の断続的な流行により生産活動の停滞やサプライチェーンの混乱が発生したものの、全体的には持ち直しの傾向が見られました。我が国経済においても、年末にかけて感染症の影響に落ち着きが見られ、企業収益や生産活動並びに個人消費において緩やかな回復基調で推移しました。

このような状況の中で、当社グループは新型コロナウイルス感染症に対し、従業員並びに関係する全ての皆様の安全を最優先として感染防止に努めながら事業の拡大に取り組みました。貴金属関連事業においては、営業展開の強化と国内外の生産拠点活用により、貴金属原料の確保、化成品等の製商品販売及び産業廃棄物処理受託の拡大に取り組みました。また、食品関連事業においては、多様化する顧客ニーズに応えた商品の開拓と安全安心な商品の安定提供により、販売量の拡大に取り組みました。

これらの結果、当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高203,634百万円（前年同四半期比18.8%増）、営業利益10,463百万円（前年同四半期比66.4%増）、経常利益11,269百万円（前年同四半期比76.9%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益7,900百万円（前年同四半期比69.0%増）となりました。

なお、第1四半期連結会計期間の期首より「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。）等を適用しております。この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は13,876百万円減少し、営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益はそれぞれ47百万円増加しました。詳細につきましては、「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記（4）四半期連結財務諸表に関する注記事項（会計方針の変更）及び（セグメント情報等）」をご参照ください。

各セグメント別の概況は次のとおりであります。

貴金属関連事業

当事業の主力顧客であるエレクトロニクス業界は、半導体不足に伴う自動車市場などの生産低下はあったものの、スマートフォン市場の回復や5Gの進展に伴う通信インフラの整備拡大などを背景に、電子部品・デバイス分野の生産活動は回復傾向となりました。このような状況の中で、当社グループの貴金属関連事業では、一部の貴金属相場下落の影響を受けたものの、貴金属リサイクルの取扱量及び産業廃棄物の処理受託は増加し、金製品及び銀製品等の販売量も増加した結果、売上高及び営業利益は前年同四半期に比べ増加しました。

これらの結果、当該事業の売上高は142,794百万円（前年同四半期比29.1%増）、営業利益は8,286百万円（前年同四半期比57.4%増）となりました。

食品関連事業

当事業の主力顧客である食品製造業界は、資源価格や物流費の上昇などから総じて厳しい状況が続いております。また、コンテナ不足など世界的なサプライチェーンの混乱も継続しており、食資源の安定的な供給において引き続き注意が必要な状況となっております。このような状況の中で、当社グループの食品関連事業では、顧客ニーズに応えた商品の開拓と、調達力を活かした安定提供などで差別化を図り、水産品、畜産品、農産品の販売量は増加し、売上高及び営業利益は前年同四半期に比べ増加しました。

これらの結果、当該事業の売上高は60,896百万円（前年同四半期比0.0%増）、営業利益は2,176百万円（前年同四半期比112.5%増）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(1) 資産、負債及び純資産の状況

(資産)

当第3四半期連結会計期間末の資産合計は、前連結会計年度末に比べ7,009百万円増加し、111,275百万円となりました。これは主として現金及び預金、受取手形及び売掛金の増加と、棚卸資産の減少との差引によるものです。

(負債)

当第3四半期連結会計期間末の負債合計は、前連結会計年度末に比べ485百万円減少し、38,174百万円となりました。これは主として買掛金、短期借入金の増加と、未払金、長期借入金の減少との差引によるものです。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末の純資産は、前連結会計年度末に比べ7,495百万円増加し、73,100百万円となりました。これは主として期末及び中間配当金の支払い1,095百万円を上回る利益剰余金の増加によるものです。なお、利益剰余金の増加には収益認識会計基準等の適用に伴う期首の調整229百万円が含まれております。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第3四半期連結累計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前連結会計年度末に比べ2,183百万円増加し、10,987百万円となりました。

(営業活動のキャッシュ・フロー)

当第3四半期連結累計期間における営業活動により増加した資金は5,281百万円となりました。これは主として税金等調整前四半期純利益、減価償却費による資金の増加と、売上債権の増加及び法人税等の支払いによる資金の減少との差引によるものです。なお、前年同四半期の2,113百万円の資金の増加に比べ3,168百万円増加しました。

(投資活動のキャッシュ・フロー)

当第3四半期連結累計期間における投資活動に使用した資金は1,872百万円となりました。これは主として生産設備・機械の新設及び更新等の有形固定資産取得によるものです。なお、前年同四半期の2,631百万円の支出に比べて758百万円の支出減少となりました。

(財務活動のキャッシュ・フロー)

当第3四半期連結累計期間における財務活動により減少した資金は1,321百万円となりました。これは主として短期借入金の増加による資金の増加と、長期借入金の返済及び配当金の支払いによる資金の減少との差し引きによるものです。なお、前年同四半期の2,118百万円の資金の減少に比べ797百万円増加しました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

現時点では、前回発表時（2021年11月5日）の業績見通しから変更はございません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2021年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	8,803	10,987
受取手形及び売掛金	23,901	29,194
商品及び製品	26,578	24,097
仕掛品	536	583
原材料及び貯蔵品	11,266	12,330
未収入金	1,449	1,983
その他	4,073	3,816
貸倒引当金	△128	△9
流動資産合計	76,482	82,981
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	12,182	12,335
減価償却累計額	△5,729	△6,035
建物及び構築物（純額）	6,452	6,300
機械装置及び運搬具	11,469	12,118
減価償却累計額	△8,288	△9,024
機械装置及び運搬具（純額）	3,180	3,094
土地	8,736	8,744
リース資産	1,814	1,714
減価償却累計額	△858	△898
リース資産（純額）	955	816
建設仮勘定	612	1,103
その他	1,458	1,554
減価償却累計額	△1,188	△1,280
その他（純額）	270	273
有形固定資産合計	20,209	20,332
無形固定資産		
その他	515	652
無形固定資産合計	515	652
投資その他の資産		
投資有価証券	4,947	5,323
繰延税金資産	499	188
その他	1,642	1,822
貸倒引当金	△30	△26
投資その他の資産合計	7,058	7,308
固定資産合計	27,783	28,293
資産合計	104,265	111,275

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2021年12月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	9,744	10,623
短期借入金	9,007	10,187
1年内返済予定の長期借入金	1,488	1,588
リース債務	407	284
未払法人税等	1,708	1,956
賞与引当金	976	482
未払金	1,564	765
その他	4,448	4,205
流動負債合計	29,343	30,093
固定負債		
長期借入金	5,827	4,586
リース債務	566	542
繰延税金負債	36	92
役員退職慰労引当金	701	731
執行役員退職慰労引当金	18	23
退職給付に係る負債	2,137	2,077
その他	28	26
固定負債合計	9,315	8,080
負債合計	38,659	38,174
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,559	3,559
資本剰余金	4,008	4,008
利益剰余金	61,248	68,282
自己株式	△3,411	△3,412
株主資本合計	65,404	72,437
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	617	624
繰延ヘッジ損益	△70	△63
為替換算調整勘定	671	934
退職給付に係る調整累計額	△1,127	△949
その他の包括利益累計額合計	89	545
非支配株主持分	111	117
純資産合計	65,605	73,100
負債純資産合計	104,265	111,275

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2020年4月1日 至2020年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年12月31日)
売上高	171,385	203,634
売上原価	153,067	180,341
売上総利益	18,318	23,292
販売費及び一般管理費	12,030	12,829
営業利益	6,287	10,463
営業外収益		
受取利息	4	5
受取配当金	24	29
投資有価証券売却益	1	-
持分法による投資利益	159	393
仕入割引	8	11
為替差益	-	44
補助金収入	12	326
その他	32	45
営業外収益合計	243	856
営業外費用		
支払利息	53	43
為替差損	57	-
その他	49	7
営業外費用合計	159	50
経常利益	6,371	11,269
特別利益		
土地売却益	347	-
特別利益合計	347	-
税金等調整前四半期純利益	6,719	11,269
法人税、住民税及び事業税	1,750	3,172
法人税等調整額	284	181
法人税等合計	2,034	3,354
四半期純利益	4,685	7,915
非支配株主に帰属する四半期純利益	8	14
親会社株主に帰属する四半期純利益	4,676	7,900

四半期連結包括利益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)
四半期純利益	4,685	7,915
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	127	7
繰延ヘッジ損益	20	3
為替換算調整勘定	△428	218
退職給付に係る調整額	206	178
持分法適用会社に対する持分相当額	△43	39
その他の包括利益合計	△116	447
四半期包括利益	4,568	8,362
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	4,563	8,356
非支配株主に係る四半期包括利益	4	5

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2020年4月1日 至2020年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	6,719	11,269
減価償却費	1,545	1,585
貸倒引当金の増減額(△は減少)	14	△122
賞与引当金の増減額(△は減少)	△450	△493
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	225	193
役員退職慰労引当金の増減額(△は減少)	10	30
執行役員退職慰労引当金の増減額(△は減少)	4	5
受取利息及び受取配当金	△28	△35
支払利息	53	43
持分法による投資損益(△は益)	△159	△393
売上債権の増減額(△は増加)	△6,778	△5,211
未収入金の増減額(△は増加)	41	△532
棚卸資産の増減額(△は増加)	785	614
仕入債務の増減額(△は減少)	1,003	607
未払金の増減額(△は減少)	△73	△565
その他	1,450	1,126
小計	4,362	8,121
利息及び配当金の受取額	77	124
利息の支払額	△53	△43
法人税等の支払額	△2,272	△2,920
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,113	5,281
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△2,948	△1,702
有形固定資産の売却による収入	445	6
無形固定資産の取得による支出	△121	△211
投資有価証券の取得による支出	△10	△21
投資有価証券の売却による収入	4	-
その他	△1	55
投資活動によるキャッシュ・フロー	△2,631	△1,872
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	△996	1,173
長期借入れによる収入	1,500	-
長期借入金の返済による支出	△1,101	△1,141
配当金の支払額	△919	△1,095
自己株式の取得による支出	△309	△1
その他	△292	△256
財務活動によるキャッシュ・フロー	△2,118	△1,321
現金及び現金同等物に係る換算差額	△242	95
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△2,878	2,183
現金及び現金同等物の期首残高	11,652	8,803
現金及び現金同等物の四半期末残高	8,773	10,987

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することとしております。これにより、貴金属関連事業及び食品関連事業での収益について、従来、総額で収益を認識しておりました取引のうち、顧客への財又はサービスの提供における役割(本人又は代理人)を判断した結果、代理人取引と判断したものについては純額で収益を認識する方法に変更しております。また、貴金属関連事業及び食品関連事業における財又はサービスの移転タイミングを契約に基づき見直しています。この他、食品関連事業での有償支給取引について、従来は、有償支給した支給品について消滅を認識しておりましたが、支給品を買い戻す義務を負っている場合、当該支給品の消滅を認識しない方法に変更しております。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っており、第1四半期連結会計期間の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を、第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に加減し、当該期首残高から新たな会計方針を適用しております。ただし、収益認識会計基準第86項に定める方法を適用し、第1四半期連結会計期間の期首より前までに従前の取扱いに従ってほとんどすべての収益の額を認識した契約には、新たな会計方針を遡及適用しておりません。また、収益認識会計基準第86項また書き(1)に定める方法を適用し、第1四半期連結会計期間の期首より前までに行われた契約変更について、すべての契約変更を反映した後の契約条件に基づき、会計処理を行い、その累積的影響額を第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に加減しております。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は13,876百万円減少し、営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益はそれぞれ47百万円増加しております。また、利益剰余金の当期首残高は229百万円増加しております。

なお、「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号 2020年3月31日)第28-15項に定める経過的な取扱いに従って、前第3四半期連結累計期間に係る顧客との契約から生じる収益を分解した情報を記載しておりません。

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することとしております。なお、四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(セグメント情報等)

I 前第3四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 2
	貴金属関連事業	食品関連事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	110,565	60,819	171,385	—	171,385
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	57	57	△57	—
計	110,565	60,877	171,443	△57	171,385
セグメント利益	5,263	1,024	6,287	—	6,287

(注) 1 調整額の内容は、セグメント間取引及び振替高の消去であります。

2 セグメント利益の合計額は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

II 当第3四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 2
	貴金属関連事業	食品関連事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	142,794	60,839	203,634	—	203,634
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	57	57	△57	—
計	142,794	60,896	203,691	△57	203,634
セグメント利益	8,286	2,176	10,463	—	10,463

(注) 1 調整額の内容は、セグメント間取引及び振替高の消去であります。

2 セグメント利益の合計額は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

2 報告セグメントの変更等に関する事項

会計方針の変更に記載のとおり、第1四半期連結会計期間の期首から収益認識会計基準等を適用し、収益認識に関する会計処理方法を変更したため、事業セグメントの利益又は損失の算定方法を同様に變更しております。

当該変更により、従来の方法に比べて、当第3四半期連結累計期間の売上高は、貴金属関連事業が6,476百万円減少、セグメント利益は47百万円増加しております。また、食品関連事業の売上高は7,399百万円減少しましたが、セグメント利益に影響はありません。